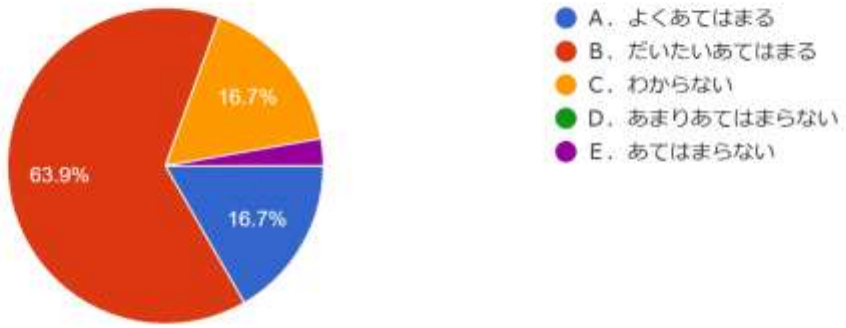
２０２４年度　教職員アンケート結果

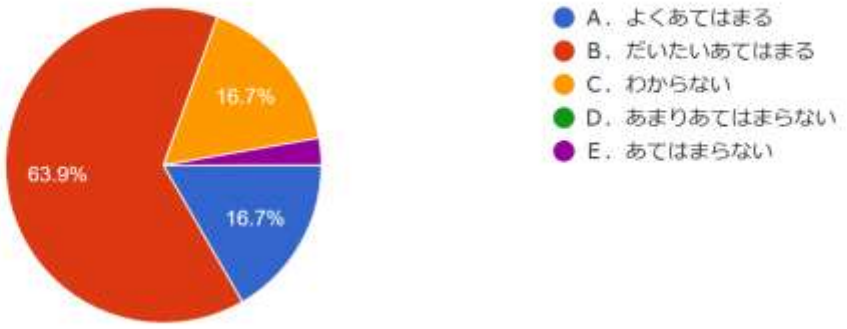
Ⅰ．１　子どもたちが意欲的に取り組める授業を展開している

36 件の回答



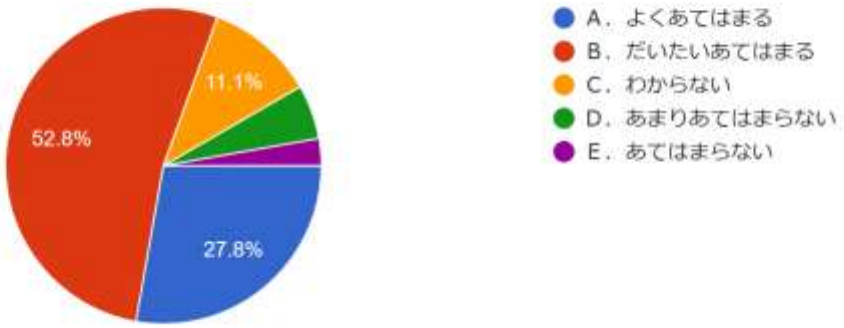
Ⅰ．２　子どもたちにわかりやすく、楽しい授業をしている

36 件の回答



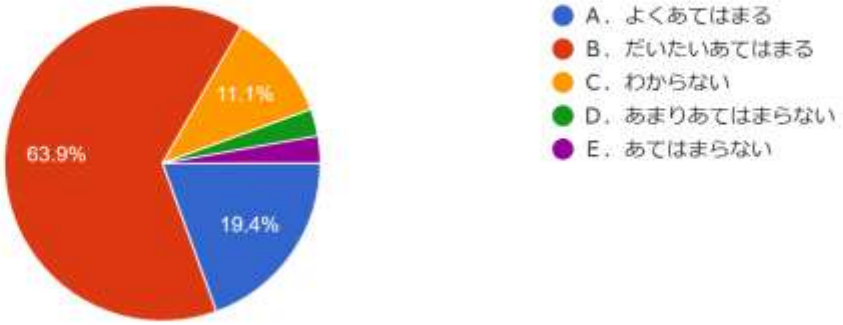
Ⅰ．３　全教職員が協力して、毎日の授業の充実に取り組んでいる

36 件の回答



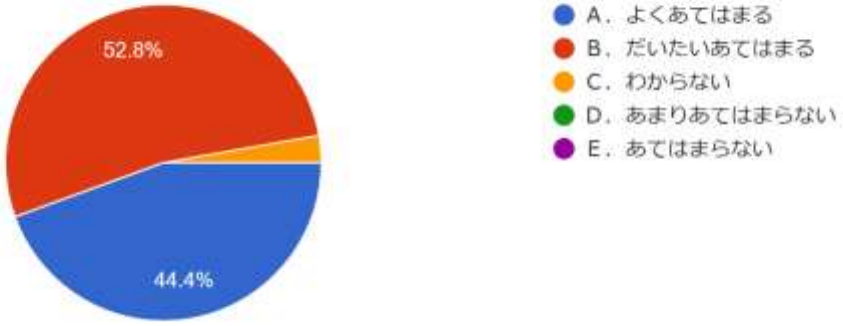
Ⅰ．４　学校は子どもたちに体験を通した学びの充実を図っている

36 件の回答



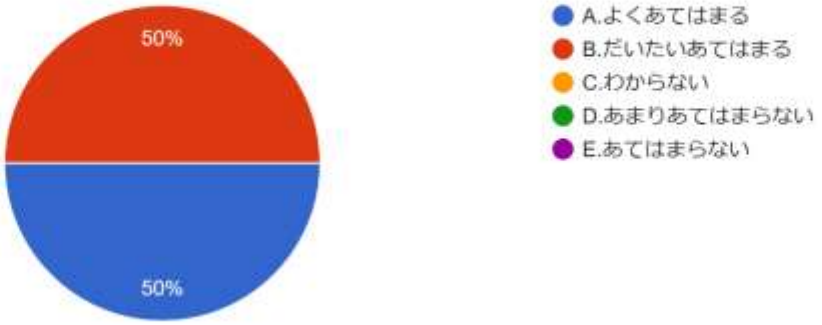
Ⅱ．５　教職員は 進んで子どもたちにあいさつしている

36 件の回答

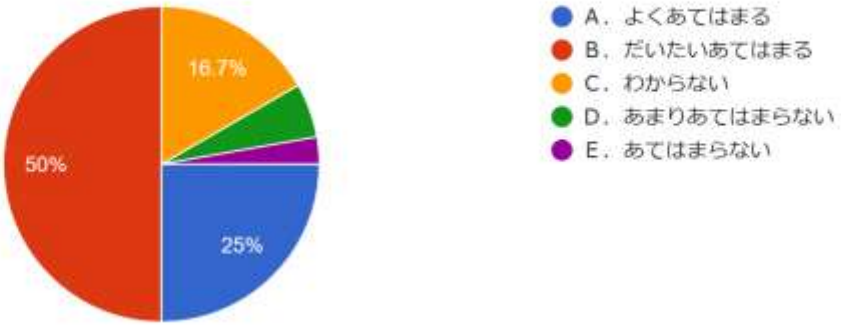


Ⅱ．６　教職員は保護者、地域の方々に進んであいさつしている

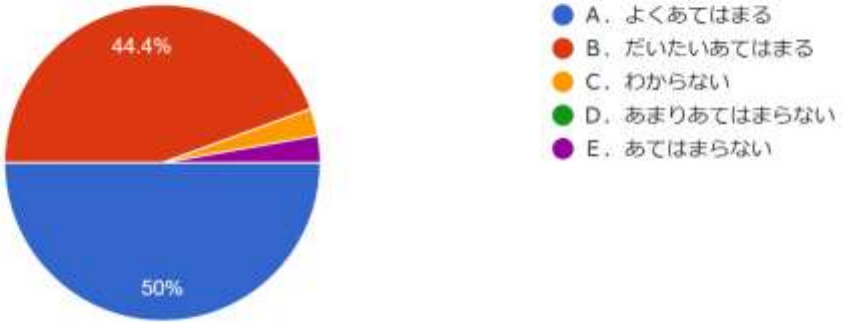
36 件の回答



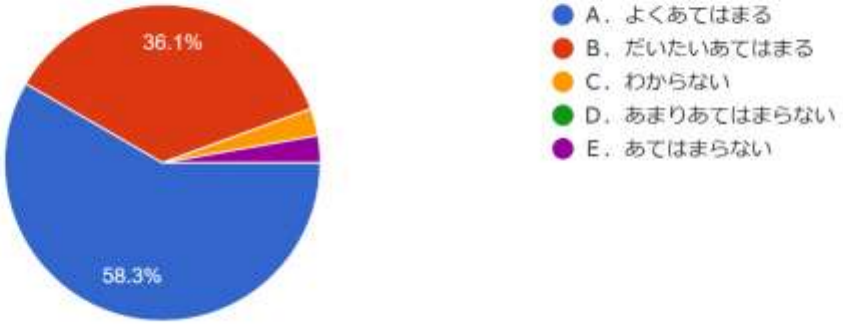
Ⅱ．７　子どもたちに、場に応じた自然なあいさつができるように指導している
36 件の回答



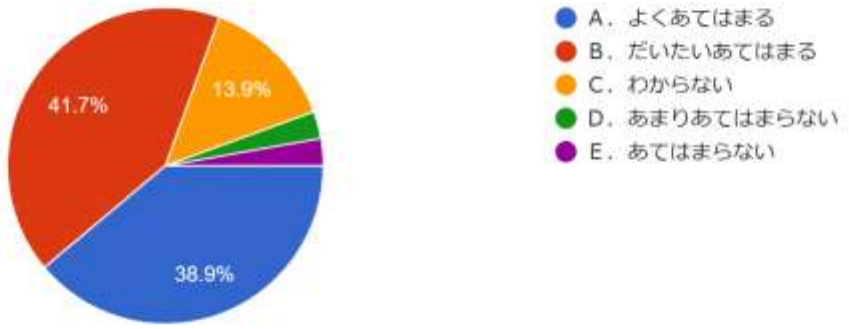
Ⅲ．８　子どもが日々生活する中で安心して生活していけるよう努めている
36 件の回答



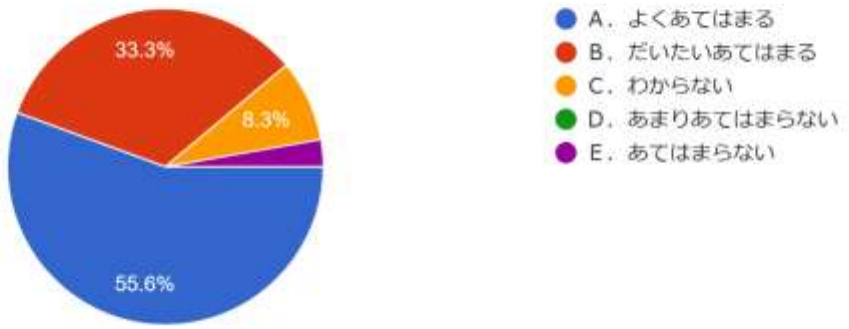
Ⅲ．９　学年や全教職員で、児童支援について共通理解を図り、対応に努めている
36 件の回答



Ⅲ．１０　学級や学年の枠を越えて、児童の生活指導について連携できている
36 件の回答



Ⅲ．１１　いじめのない学級づくりに取り組んでいる
36 件の回答



２０２４年度　教職員学校評価アンケート考察

設問１と２、３の回答が一致している。AB 評価合わせ８０％以上の教職員が、「楽しく分かりやすい意欲を持てる授業」を意識的に行っている。
また、４では、８３．３％もの教職員が、AB 評価としている。これは、片瀬地区の豊かな教育的資源（例えば５年生では片瀬漁港の漁港見学、３年生では昔遊びなど）を活用して、普段の教育活動を充実させていることが分かる。
一方で、７では、２５％およそ４人に１人の教職員が、自信を持って『場に応じた自然なあいさつができるように指導』することができていない回答している。学校だけではなく、保護者と地域共に協力し、場に応じてあいさつする事の重要性を児童に知らせていくことが大切である。
１０児童指導の連携では、AB 評価が８０．６％である一方で、D 評価が２．８％。３授業づくりでは、D 評価が５．６％という結果になった。『連携』というワードが出ると、『あてはまらない』の割合も増えた。このことから、『教職員間の連携不足』がうかがえる。また、学年内での連携はとれるが、他学年との連携が取りにくいということも考えられる。学校組織全体として、『報告・連絡・相談』を徹底し、常に連携協力して対応に当たっていくことが大切だ。
児童支援や児童指導、いじめに関しては学校組織としての対応に努めているものの一部の組織対応にとどまっており、保護者アンケートの結果からも、教職員アンケート結果からも、もう一歩の連携が必要であることを肝に銘じていきたい。